巻　頭　言

2014年度の本センターの活動は，同年より大学執行部が後藤ひとみ学長の下，新体制で船出したこととも歩調を合わせ，さまざまな今日的時代情勢に揉まれ，その活動を活発化させた年度と言えるでしょう。

まず，2013年度より年度登録制と共に相談料の有料化が始まった発達支援相談室の相談活動が，この１年間特に問題もなく，順調に軌道に乗ったと言えます。毎年，国からの運営費交付金が数千万円と削減される緊縮財政が続く中，国立大学法人も自助努力により自己収益を挙げることが強く求められています。本来，当センターの相談活動は，地域の方々への社会貢献を旨とするものですので，増益を図ることを目的とはしておりませんが，今日の社会情勢により国立大学法人にも経済原理の波が強く押し寄せてきています。その中で大学本来の教育・研究・地域貢献などの責務と経済原理のバランスを両睨みしながらの舵取りが当センターにも強く求められております。

これに関連して，外部資金の獲得も自己収入の増益と共に高く掲げられている国の方針のひとつです。当センターにおいては，2014年度から文部科学省の「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業」を３つ受託し，運用しております。発達障害早期支援研究事業（養護教育講座五十嵐哲也代表），発達障害理解推進拠点事業（教育臨床学講座祖父江典人代表），発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業（教育臨床学講座三谷聖也代表）です。一大学が，文科省プロジェクトを３つも受託していること自体が極めて異例なことであり，本センターの教員の熱意と努力のなせる技です。

さらに，これらプロジェクトにおいては，当センターの教員のみならず，養護教育講座の五十嵐准教授が早期支援研究事業の代表者としてプロジェクトを取り仕切り，教職員育成プログラム開発事業も障害児教育講座岩田吉生准教授が本センターの三谷聖也准教授と共に，藤田保健衛生大学との医教連携において中心的な役割を果たしております。他にも，当センターの吉岡恒生教授の講演がリーフレットとしてまとめられ，広く無料配布されております。原田宗忠講師は，三谷准教授の補佐役として教職員プログラム事業において活躍し，廣瀬幸市准教授，飯塚一裕准教授，川北稔准教授もこれらプロジェクトに協力を惜しまず力を注いでくれています。

また，理解推進拠点事業においては，2015年２月15日（日）に劇団インクルーシブシアター（藤井奈緒美代表）との共同により，発達障害劇ミュージカル「それぞれの星の下で」が豊明市文化会館にて上演されました。この劇作は，学校教育臨床専攻の大学院生有志と教員で原案を作り上げ，それを劇作家の菊本健郎氏の手によりシナリオまで完成させた，手作り感溢れた作品です。さらに，この公演に当たっては，マスメディアも敏感に反応し，NHKやCBCニュースなどにて放映されたり，中日新聞や毎日新聞などでも取り上げられたりしました。当日は，２回公演の各回300人定員でしたが，ほぼ満席の盛況で，アンケートでも感動のお便りが寄せられました。劇公演は大成功だったと言えます。

なお，これら３つのプロジェクトにおいては，愛教大附属岡崎小学校が早期支援研究事業の指定校

の役割を担っていただき，理解推進拠点事業においては，豊明市教育委員会が拠点地域，豊明中学校が拠点校として重要な役割を果たしていただいております。また，藤田保健衛生大学には，教職員育成開発プログラム事業における医教連携校として多大なご尽力をいただいております。さらに，大学財務部，総務課，教育創造開発機構，当センターの事務方にもさまざまに支援をいただき，「オール愛教」の大学スローガンのひとつのモデルケースにもなりうるのではないかと自負しております。

なお，本３プロジェクトの成果は報告書として製本され，HPにもアップされる予定です。さらには，2015年度も引き続き３プロジェクトは受託事業として採択され，継続事業として運用される運びとなっております。

他にも当センターの取組は活発に行われております。学部生によるボランティア活動「 SOBA 」（川北稔准教授代表）は堅実な実績を残しておりますし，今年度からは新たに始まった「臨床カフェ」（三谷聖也准教授代表）は，SOBAとも連携し，学生による学生生活の支援活動を目的として活動しております。今年度は，「スマホと教育」などのテーマにて，教育未来館において学生向けの企画が催され，学内交流の活性化に一役担っています。

さて，2015年度に向けては，当教育臨床総合センターも，相談活動のみならず，これまで以上に地域に向けて開かれた組織であることが求められます。そのためには，心理教育相談室，発達支援相談室の着実な運営や相談活動の実施，３つの文部科学省プロジェクトの遂行など，当センターの担う責務には多大なものがあります。

2015年度も当センター教員，研究協力員のみならず，学内，附属学校，教育委員会など関係各機関の皆様に，広くご支援いただくことをお願いし，巻頭言のことばに代えたいと思います。

平成27年３月吉日

教育臨床総合センター　センター長　　祖父江典人